

## セッション1

# 相談支援体制の確立その1 有効な院内の連携

異なる職種・部門、院内周知・チーム体制、  
そして私たちが大事にしていること

ソーシャルワーカーの立場から

埼玉医科大学国際医療センター  
総合相談センター／がん相談支援センター  
主任 MSW 御牧由子

# 埼玉医科大学国際医療センター

2007年4月開院

地域がん診療連携拠点病院

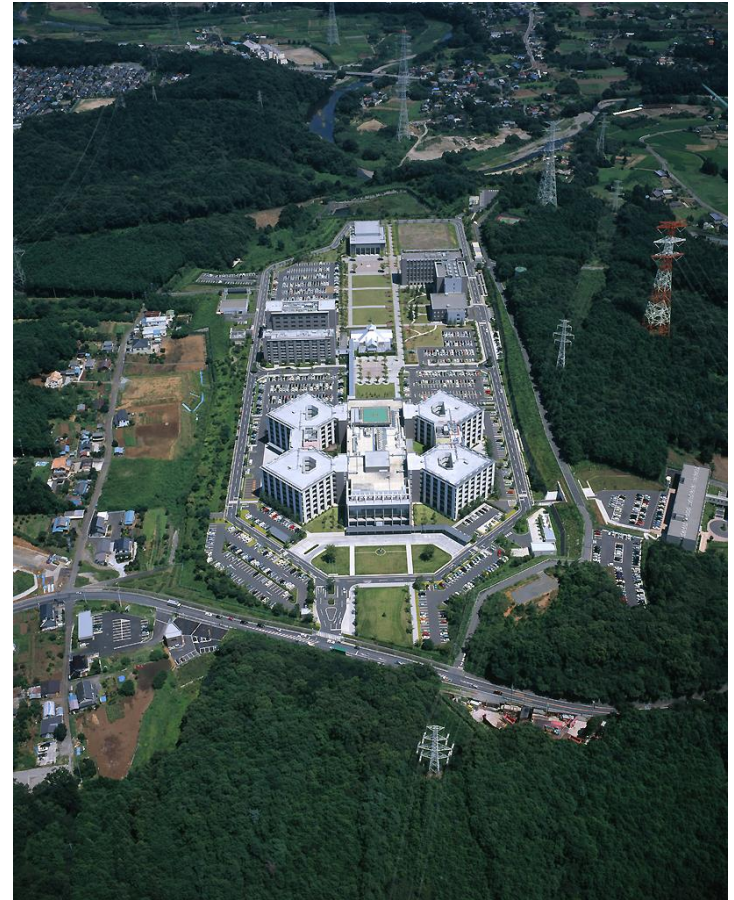
- 救命救急センター
  - 救命救急センター
  - 脳卒中センター
  - 小児救急センター
- 心臓病センター
- 包括的がんセンター
  - 通院治療センター

病床数 700床

総合相談センター／がん相談支援センター

MSW 7名(専任、センターごとの担当制)

看護師 2名(兼任、緩和ケア認定看護師、退院調整看護師)



# 包括的がんセンター

包括的がんセンター 外来  
各診療科が専門特化したがん医療を提供  
外来看護師  
がん看護専門外来／支援外来

病棟

緩和ケアチーム

栄養相談

地域医療連携室

家族

患者

通院治療センター 40床

放射線腫瘍科

臨床試験支援センター

ラーニングセンター

がん相談支援センター  
MSW、看護師



# がん相談支援センター

がん患者・家族への相談支援は、がん特有の懸念、がんという疾病やその治療の特性が、身体、心理、生活にどのような影響を与えているかについて理解することが必要となる。

## (発表者注)

発表スライドには、この場所に上記説明の内容を表す図がありましたが、出典の文献の出版社の許諾がないままでは公開サイトにて掲載することができないため、割愛しました。フォーラムに参加された方で、当日発表資料のPDF版ををご希望の方は、地域相談支援フォーラム事務局までご連絡ください。



# 看護、心理、MSWの視座

医療、看護、心理、福祉の各専門家は、いずれも人の「生(life)」にかかわる。しかし、各職種はそれぞれの専門性によって、異なる視座を持っており、そのベクトルの違いを背景として互いの視点や考えを補い合うことにより、人を包括的に理解することができる。

## (発表者注)

発表スライドには、この場所に上記説明の内容を表す図がありましたが、資料の出典者の承諾がないままでは公開サイトで掲載することができないため、割愛しました。フォーラムに参加された方で、当日発表資料のPDF版をご希望の方は、地域相談支援フォーラム事務局までご連絡ください。

# がん相談支援センターの 連携体制

## 病院組織

### 運営管理部門

- ・包括的がんセンター運営会議
- ・がん相談支援センター運営会議
- ・カンファレンス(外来、病棟  
ブレストケアチーム、  
小児がんチーム等)

個別の相談支援  
において多職種  
で連携や  
協働を  
図る



# がん相談支援センターの 連携体制の事例

---

小児脳脊髄腫瘍科の医師は、

初診時にすべての患児とその家族に対して

がん相談支援センターのMSWを紹介している。

また隔週で、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ  
スタッフ、MSW等による小児がんチームのカンファレンスを  
開催し、患児や家族の治療と療養生活への支援について検討。

**小児脳腫瘍：小児期最多の固形腫瘍**

小児がんによる死亡と後遺症の最大の要因となっており、  
救命とQOLの向上が急務である。

治療は手術、化学療法、放射線治療と長期にわたる。<sup>7</sup>

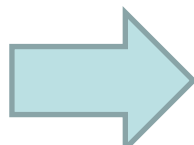
---



# がん相談支援センターの 連携体制の事例

子どもの希望：「友達と一緒に勉強したい」

親の希望：「治療を受けながらも子どもらしく過ごす時間を  
作ってあげたい。治療中も勉強することはできないだろうか」



2007年の開院時、医務課長とMSWで相談し、  
「病気療養児の訪問教育の協力病院」の申請手続きを行い、  
特別支援学校の教員による個別の学習の機会を設ける。  
脳腫瘍の治療が必要な学齢期の患児が増えてきたので、  
学校の先生と相談し、個別の学習を集団での授業へと形態  
を変えた。これは、子ども同士の触れ合いにつながり、また  
訪問教育の教諭不足への対策でもあった。



# がん相談支援センターの 連携体制の事例

## 院内

「訪問教育検討会議」  
を組織し、月1回開催。  
事務局をMSWが担う。  
医師、看護師長、感染対  
策室、医療安全対策室、  
医務課長、総務課長

## 地域

特別支援学校、  
教育委員会  
(埼玉県、日高市)、  
院内関係者  
による検討会を  
重ねた。

2010年4月  
県内では  
4校目の  
院内学級を  
開設する  
ことができた

「友達と一緒に勉強したい」という小児がんの子どもたちの意思を実現するために、多職種、多部門で連携を図るプロセスを通じて、院内にがん相談支援センターの役割への理解が広がった。



# がん相談支援センターの 連携体制の今後の課題

- ・ 個々の相談支援を通じて、医師、看護師、心理士、リハビリスタッフ、MSWなどの多職種による連携体制を組むことはできているが、MSWの人数は7人（そのうち、がんを担当しているのは主に2人）のため、効果的なカンファレンスの体制を検討する必要がある。
- ・ 多職種が協働を図るためには各専門職の自立性が問われる。まず、MSWの相談支援の質の向上が必要であり、同職種での連携体制も重要と考える。
- ・ 個々の相談支援だけではなく、がん患者や家族を取り巻く環境を改善していくために組織に働きかけ、重層的な連携体制を築いていくことが求められている。運営管理部門への縦の連携が難しい。